

# 病害虫情報(第4号)7月予報

令和4年 6月30日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333  
ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 7月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 ..... 1  
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、イチゴ、抑制トマト、スイカ、カボチャ、メロン】
- II 7月の気象予報と病害虫発生予想の根拠 ..... 12

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和4年6月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 7月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

### 【水稲】

生育:並(生産技術部:はるみ)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
いもち病 (葉いもち)	並	△	(予) オリゼメート粒剤 [初発10日前～初発時,14日,2回] 3～4kg/10a (予・治) オリブライト1キロ粒剤 [出穂10日前まで,45日,1回] 1kg/10a (予・治) コラトップ粒剤5 [初発10日前～初発時,2回] 3～4kg/10a 等 ◆ 発生を認めたら直ちに防除する。山間、谷戸田等常発地では発生に注意する。
ヒメビウンカ (縞葉枯病)	やや多 (並)	△	アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a トレボン粒剤 [21日,3回] 2～3kg/10a 等 ◆ ヒメビウンカは、縞葉枯病を媒介する。
セジロウンカ	並	△	◆ 5月上中旬植えの水稲では、ヒメビウンカの発生状況に応じて追加防除を行う。
トビイロウンカ	—	△	◆ 5月下旬以降植えの水稲で箱施薬を行った場合には、この時期の防除は不要だが、ヒメビウンカの今後の発生状況に十分注意する。
ツマグロヨコバイ	並	△	◆ イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する防除情報を2022年4月7日に発表している。
イネツトムシ	—	○	パダン粒剤4 [30日,6回] 3～4kg/10a パダンSG水溶剤 [21日,6回] 1,500倍 スミチオン乳剤 [21日,2回] 1,000倍 等 ◆ 6月27日時点で第2世代予測孵化日は平年並。詳細は「防除情報(病害虫情報 号外 第5号)」を参照する。
斑点米カメムシ類	—	—	◆ 斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底する。 ◆ 水田への飛び込みを防ぐため、出穂10日前頃からの周辺除草は控える。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

## 【カンキツ】 生育:並(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等 ◆ 前回散布後250mm以上の降雨があれば、薬剤散布を行う。
かいよう病 (中晩柑類)	やや多	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ◆ 風傷やミカンハモグリガの食害痕が病原菌の侵入口になる。
チャノキイロ アザミウマ	並	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000倍 ◆ 隣接する防風垣や茶樹が発生源になりやすい。 等
ミカンハダニ	並	○	ダニゲッターフロアブル [前日,1回] 2,000倍
ミカンサビダニ	-	○	◆ ミカンハダニは2葉に1頭程度に増えたら防除する。 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ナシ】 生育:やや早(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	やや多	○	(予・治) ベルクートフロアブル [14日,5回] 1,500倍 (予・治) ナリアWDG [前日,3回] 2,000倍 ☞ ナリアは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ストロビードライフロアブル [前日,3回] 3,000倍 等
ナシヒメシンクイ (発生時期)	やや多 (やや早)	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍
カメムシ類	やや多	△	ロディー水和剤 [前日,2回] カメムシ類:1,000倍 シンクイムシ類:1,000~1,500倍 等 ◆ ナシヒメシンクイの第3、4世代の幼虫を対象とする防除は、前世代の成虫発生ピーク直後が適期である。本年の防除適期は、7月上~中旬及び8月上旬頃と予想される(小田原、伊勢原)。 ◆ カメムシ類、ナシヒメシンクイの発生状況は、ホームページの最新情報を参考にする。
ハダニ類	並	○	ダニゲッターフロアブル [前日,1回] 2,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍 等 ◆ 梅雨明け後に防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ブドウ(大粒種)】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	やや多	○	(予・治) ランマンフロアブル [14日,3回] 1,000～2,000倍 (予) イデクリーン水和剤 [-,-] 800倍 (予) Zボルドー [-,-] 500～800倍 + クレフノン [-,-] 100倍 等
黒とう病	やや多	○	(予) イデクリーン水和剤 [-,-] 黒とう病:500倍,晩腐病:400～800倍
晩腐病	—	○	(予・治) オーシャインフロアブル [7日,2回] 黒とう病:2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	並	○	ディアナWDG [前日,2回] アザミウマ類:5,000～10,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予・治) ストロビードライフロアブル [14日,3回] 3,000倍 等
カキノヘタムシガ	—	○	スミチオン水和剤40 [30日,3回] カキノヘタムシガ:800～1,200倍 カメムシ類:800～1,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 テルスターフロアブル [3日,2回]
カメムシ類	やや多	△	カキノヘタムシガ:3,000倍 カメムシ類:3,000～6,000倍 等 ◆ カキノヘタムシガでは、平年の防除適期は8月上旬である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【チャ】 生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
輪斑病・ 新梢枯死症	並	○	<p>【夏整枝・浅刈り更新直後】 (予) ダコニール1000 [10日,1回] 700~1,000倍 (予・治) カスミンボルドー又はカッパーシン水和剤 [14日,2回]1,000倍 等</p> <p>☞ カスミンボルドー及びカッパーシン水和剤は混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p>❖ 輪斑病は摘採や整枝のときにできた傷口から感染するため、薬剤散布のタイミングは摘採や整枝後、早ければ早いほど効果的である。</p>
チャノミドリヒメ ヨコバイ	多	○	<p>【夏整枝・浅刈り更新の2週間ほど後】 コルト顆粒水和剤 [7日,2回] 2,000~3,000倍 コテツフロアブル [7日,2回] 2,000倍 等</p>
チャノキイロ アザミウマ	並	○	
チャトゲコナジラミ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

## 【露地トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント												
葉かび病	並	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 葉かび病:2,000倍、うどんこ病:2,000~4,000倍												
うどんこ病	—	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,3回] 2,000~4,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] うどんこ病:300~600倍 等												
アブラムシ類	並	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] コナジラミ類:2,000~3,000倍												
コナジラミ類	並	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍												
オンシツ コナジラミ	並	○	ウララDF [前日,3回]												
タバココナジラミ	並	○	アブラムシ類:2,000~4,000倍、 コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍												
アザミウマ類	やや多	○	ディアナSC [前日,2回] アザミウマ類:2,500~5,000倍、コナジラミ類:2,500倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等												
			❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
			❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。												
オオタバコガ	並	○	ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 プレバゾンフロアブル5 [前日,3回] 2,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [前日,2回] 1,500倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 等												
			❖ 極端に着色の早い果実には、幼虫が食入している可能性がある のでよく確認し捕殺する。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【露地キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖ 防除のポイント										
べと病	並	○	(予・治) ベトファイター顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000～3,000倍 ☞ ベトファイターは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000～4,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 等 ❖ 肥料切れや成り込みによる草勢低下は、発生を助長させる。										
うどんこ病	並	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 等										
アブラムシ類	やや多	○	ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍										
コナジラミ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] アブラムシ類、コナジラミ類:2,000～3,000倍、 アザミウマ類:2,000倍										
オンシツ コナジラミ タバコ コナジラミ	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類:2,000倍 等										
アザミウマ類	並	○	❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	やや多	○	❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 栽培終了後の作物が、ウイルス病の感染源とならないよう速やかに片付ける。										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) アミスターオプティフロアブル [前日,4回] 1,000倍 ☞ アミスターオプティは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等
◆ 日照不足、多肥、高温、過繁茂の状態になると蔓延しやすくなる。			
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	並 やや多	○ ○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 等
オオタバコガ	並	○	コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 プレバソンフロアブル5 [前日,2回] 2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍
チャノホコリダニ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	やや多	○	(予) ダコニール1000 [14日,3回] 1,000倍 (予・治) ストロビーフロアブル [7日,3回] 2,000倍 等
ネギアザミウマ	並	○	【生育期:株元散布】 ダントツ粒剤 [3日,4回] ネギアザミウマ:3~6kg/10a
シロイチモジヨトウ	—	△	【生育期:散布】 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] ネギアザミウマ:1,000倍、シロイチモジヨトウ:1,000~1,500倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ボタニガードES [発生初期,-] アザミウマ類:500~1,000倍 等 ☞ ボタニガードは散布後の湿度を保つため、夕方あるいは曇天時に散布する。 ◆ ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	—	○	<b>【育苗期】</b> (予) タフパール* [育苗期～前日, —] 2,000～4,000倍 (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期, 6回] 500倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤 [仮植栽培期(但し収穫76日前), 6回] 600倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 (予・治) ゲッター水和剤 [収穫開始21日前, 3回] 1,000倍 ☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布間隔を4～7日間隔程度に短縮する。 ◆ 発病した株への治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。
うどんこ病	—	○	<b>【育苗期】</b> (予) タフパール [発病前～発病初期, —] 2,000～4,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日, —] 800～1,000倍 (予・治) ポリオキシシンAL水和剤 [収穫開始14日前, 3回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 ◆ うどんこ病は育苗期からの防除が重要である。 ◆ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となるが病原菌は残存している。 ◆ 本ぽに発病株を持ち込まないよう、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。 ◆ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布間隔を4～7日間隔程度に短縮する。
ハダニ類	—	○	<b>【育苗期】</b> コロマイト水和剤 [前日, 2回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300～600倍 エコピタ液剤 [前日, —] 100倍 ◆ サンクリスタルなどの気門封鎖剤は、ハダニ類が多発している場合、3日程度の間隔で複数回散布する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\* 日前まで」を「\* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### \*タフパールと上記掲載剤の混用事例および散布間隔(メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ ポリオキシシン、コロマイト、サンクリスタル: 混用事例あり
- セイビアー、サンヨール、カリグリーン: 3日以上
- アントラコール、ジマンダイセン、ゲッター: 7日以上、ベルコート水和剤: 10日以上

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。



# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月) ..... 神奈川県農業技術センター

## 【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ タバコ コナジラミ	やや多  並	○  ○	<p>【育苗期:粒剤施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1~2g/株 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] コナジラミ類:1~2g/株</p> <p>【育苗期:散布】 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 グレースシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 ベミデタッチ [前日,-] コナジラミ類:500倍</p>												
アザミウマ類	やや多	○	<p>等</p> <p>◆ ベミデタッチは7日程度の間隔で複数回散布する。 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。</p>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

## ▼三浦半島地区野菜▼

### 【スイカ】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	やや多	○	(予) アントラコール顆粒水和剤 [前日,4回] 400~600倍 (予・治) ポリベリン水和剤 [前日,4回] 1,000倍 ☞ ポリベリンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) シグナムWDG [前日,3回] 1,500~2,000倍 ☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。 等
炭疽病	並	○	◆ 降雨による土砂のはねかえりは感染、発病の原因となる。
うどんこ病	並	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) シグナムWDG [前日,3回] 1,500~2,000倍 ☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ハチハチフロアブル [前日,2回] 1,000倍 等
アブラムシ類	多	○	ハチハチフロアブル [前日,2回] アブラムシ類:1,000~2,000倍、アザミウマ類:1,000倍
アザミウマ類	並	○	ウララDF [前日,2回] アブラムシ類:2,000~4,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 アフーム乳剤 [前日,3回] アザミウマ類:1,000~2,000倍 等
ハダニ類	並	○	ダニサラバフロアブル [前日,2回] 1,000倍 バロックフロアブル [前日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

### 【カボチャ】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
疫病	—	○	(予・治) フォリオゴールド [7日,3回] 疫病:1,000倍 ☞ フォリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	並	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 薬剤散布では、地表面に接する莖や果実に薬剤が付着するように散布する。 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

## ▼ 三浦半島地区野菜 ▼

### 【メロン】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや多	○	(予・治) ベルコート水和剤 [前日,5回] うどんこ病、つる枯病:1,000倍 (予・治) フオリオゴールド [3日,3回]
つる枯病	並	○	うどんこ病、つる枯病:800倍、べと病:800~1,000倍 ☞ フオリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。
べと病	—	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 等 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ つる枯病は、多湿条件で発生しやすい。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

## II 7月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 7月の気象予報(気象庁 6月21日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間*	20%	30%	50%

\*6月23日発表1か月予報による。

### (2) 7月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稻	いもち病 (葉いもち)	少	並	1) アメダステータを元に計算した葉いもち病感染好適日の出現は、5月1日から6月26日の期間中、2.0日で平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年より多い予報。(－)
	ヒメビウンカ (縞葉枯病)	少	やや多 (並)	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 予察灯への誘殺数は、平年よりやや多い。(±) 3) ヒメビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、平年よりやや低い。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	セジロウンカ	少	並	1) 予察灯への誘殺は見られず、平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ツマグロヨコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 予察灯への誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
カンキツ	黒点病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	そうか病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)の黄色粘着板による調査では、誘殺が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナシ	黒星病	少	やや多	1) 巡回調査では、徒長枝での発生が平年より多い。(＋) 2) 巡回調査では、短果枝での発生は平年並。(±) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、徒長枝での発病は見られず、発生が平年並。(±) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ナシヒメシンクイ (発生時期)	－ －	やや多 (やや早)	1) フェロモントラップへの第1世代誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)では平年並(±)、伊勢原と大井では平年よりやや多い(＋)。 2) 第2世代成虫の発生ピークは、有効積算温度等によるシミュレーションから、7月上中旬頃と予測される。 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ニセナシサビダニ	少	並	1) 巡回調査では、モザイク症状を含めた発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ブドウ	べと病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	黒とう病	－	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	－	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
果樹全般	カメムシ類	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原、南足柄では平年よりやや多く(+)、県予察ほ(根府川)では平年よりやや少ない(－)。 2) 予察灯への誘殺数は、伊勢原、山北では平年よりやや多く(+)、県予察ほ(、上吉沢、根府川)、では平年よりやや少ない(－)。 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
チャ	輪斑病 新梢枯死症	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず、発生が8年平均値並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	炭疽病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年並。(±) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、落下虫数が平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノミドリヒメヨコバイ	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや多い。(＋) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、落下虫数が平年より多い。(＋) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノホソガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年よりやや少なく(－)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年並(±)。 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より多い。(＋) 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハマキムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに平年並。(±) 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	カンザワハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月) ..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地トマト	葉かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミ、タバココナジラミともに発生が平年並(±)。 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	アザミウマ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハモグリバエ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
露地 キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや多 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年よりやや多い(+)、タバココナジラミの発生が平年より少ない(－)。 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 やや多	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの寄生は見られず、発生が平年よりやや少なく(－)、ミカンキイロアザミウマの発生が平年並(±)。 2) 青色粘着板への捕虫数は、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや少なく(－)、ミカンキイロアザミウマは平年より多い(+) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (－): 少発要因

# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナス	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 やや多	1) 巡回調査ではミナミキイロアザミウマの発生は平年並(±)、ミカンキイロアザミウマの発生が平年より多い(+) 2) 青色粘着板への捕虫数は、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや少なく(-)、ミカンキイロアザミウマ平年より多い(+) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハモグリバエ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(-) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ネギ	さび病	少	やや多
ネギアザミウマ		中	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(-) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
抑制トマト	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	- -	やや多 並	1) 露地トマトの巡回調査では、オンシツコナジラミ、タバココナジラミともに発生が平年並(±) 2) 露地キュウリの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年よりやや多く(+)、タバココナジラミの発生は平年より少ない(-) 3) ナスの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年より多く(+)、タバココナジラミの発生は平年よりやや少ない(-) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	アザミウマ類	-	やや多	1) 露地トマトの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (-): 少発要因



# 病害虫情報

(令和4年・第4号・7月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地野菜 全般	ハスモンヨトウ	－	やや少	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年より少ない(－)。 2) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は上吉沢では平年よりやや少なく(－)、三浦では平年より少ない(－)。 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オオタバコガ	－	並	1) 巡回調査では、露地トマトでは発生が平年よりやや多く(＋)、ナスでの発生は平年並(±)。 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年よりやや少ない(－)。 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年よりやや少なく(－)、三浦では平年より少ない(－)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

## 三浦半島地区野菜

病害虫名	(作物名)	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
つる枯病	(スイカ) (メロン)	少	やや多	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年よりやや多く(＋)、メロンでは発生が平年並(±)。 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
		少	並	
炭疽病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
うどんこ病	(スイカ) (カボチャ) (メロン)	少	並	1) 巡回調査では、スイカでは発病は見られず、発生が平年並(±)、カボチャでは発生が平年よりやや少なく(－)、メロンでは発生が平年よりやや多い(＋)。 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
		中	並	
アブラムシ類	(スイカ)	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
		中	並	
アザミウマ類	(スイカ)	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ハダニ類	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※ 「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
    - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
    - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
    - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★ナ シ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー、ナリア、ファンタジスタ)
    - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
    - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
    - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(インダー、スコア、アンビル)の場合:1作2回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作3回

## ★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ホライズン)
    - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー、カナメ)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(オーシャイン、オンリーワン)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤の場合:1年1回
    - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

## ★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

## ★スイカ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤
    - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(スコア)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

## ★カボチャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

## ★メロン★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(スコア)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回